

目 次

口 絵		
序	弘前大学長 佐藤 敬	i
目 次	iv
凡 例	xvi

通 史 編

第 1 編 弘前大学全体の歩み

第 1 章	弘前大学の 10 年	1
第 2 章	機能強化に向けた組織改革	5
第 1 節	人文学部、教育学部、理工学部及び農学生命科学部の改組 並びに大学院の入学定員の見直し	5
第 2 節	教職大学院の設置	6
第 3 節	教育研究院の設置	7
第 4 節	附置研究所の再編成	7
第 5 節	地（知）の拠点事業の推進	8
1.	地（知）の拠点事業（COC及びCOC+）に向けた推進体制	8
2.	弘前大学のCOC事業の取組	9
3.	全県的なCOC+事業の取組	9
第 6 節	国際連携体制の強化	11
第 7 節	情報セキュリティマネジメント	11
第 3 章	教育改革	13
第 1 節	新しい教養教育	13
第 2 節	入学者選抜	16
第 3 節	教育の質の向上	20
第 4 節	学生支援の充実	24

第5節	国際性の涵養	25
第6節	就職支援、キャリア教育	26
第7節	学生の課外活動と活躍	27
第8節	環境面の充実	28
第4章	研究の10年	29
第1節	研究推進の基本的目標	29
第2節	研究推進体制の整備	30
第3節	科学研究費助成事業、外部資金の状況	31
第4節	研究支援事業	32
第5節	産学連携	33
第6節	東京事務所	34
第7節	その他研究環境の充実等	34
第5章	社会連携	37
第1節	地域連携・地域貢献における基本的な目標	37
第2節	自治体等との包括連携協定	38
第3節	サテライトの機能強化並びにサテライトキャンパスの設置	39
第4節	大学コンソーシアム学都ひろさき	40
第5節	その他社会連携に関する事業等	41
1.	弘大ねふた	41
2.	弘大カフェ	42
3.	県内首長や民間企業社長等による講演会	43
第6章	国際化	44
第7章	弘前大学同窓会・後援会	47
第1節	弘前大学同窓会	47
第2節	弘前大学後援会	48
第8章	弘前大学創立70周年記念事業	51

第2編 各部局・附属機関・附属施設の歩み

第1章 人文社会科学部・大学院人文社会科学研究科	58
第1節 10年の歩み	58
1. 人文社会科学部の歩みと現状	58
(1) 人文学部3課程10コース制の運営	58
(2) 人文社会科学部2課程5コース制への改組	60
(3) 現状	61
2. 大学院人文社会科学研究科の歩みと現状	61
(1) 人文社会科学研究科	61
(2) 現状	62
第2節 教育カリキュラムと学生指導体制	63
1. カリキュラムの変遷	63
2. 入学・修了の状況	66
3. その他	68
第3節 研究活動と社会貢献・地域貢献	69
1. 研究活動と社会貢献・地域貢献	69
(1) 研究活動とその成果	69
(2) 社会貢献・地域貢献	69
2. 弘前大学特定プロジェクト教育センター	70
(1) 地域未来創生センター	70
(2) 北日本考古学研究センター	72
第2章 教育学部・大学院教育学研究科	74
第1節 学部・大学院	74
1. 学部	74
(1) 前史	74
(2) 学部改組	74
① 小学校教員養成機能の強化	74
② 地域連携型教員養成の重視	75
③ 生涯教育課程の廃止	75
(3) 組織の改編	75
① 教育実践総合センターの改組	75

②教職支援室の設置	76
③免許状更新講習支援室の移管	76
④教育力向上プロジェクト（ラボバスプロジェクト）	76
2. 教育学研究科	76
(1) 教育学研究科の改組	76
(2) 教職実践専攻（教職大学院）	77
①理念と2つのコース	77
②指導体制	78
③大学院生の学びと研究	78
3. 附属学校園	79
(1) 学部・教職大学院と附属学校園との連携の推進	79
(2) 地域教育課題への対応と地域との連携	80
(3) 附属学校園の改革	80
第2節 教育と学生	81
1. カリキュラムの変遷	81
(1) 「専門力」と「実践力」との融合にむけて (2011年（平成23）度改革)	81
(2) 地域協働型教員養成へ（2016年（平成28）度改革）	82
2. 入学試験制度の改善	83
(1) 学生定員の変動	83
(2) 入試制度の変遷	84
3. 教職キャリア支援の充実	85
第3節 現状と将来構想	86
1. 現状	86
2. 将来構想	87
第3章 医学部医学科・大学院医学研究科	89
第1節 医学科・医学研究科10年の歩み	89
1. 教育における改革	89
2. 入試制度の改善	90
3. 研究における躍進	91
第2節 医学科・医学研究科における教育の改善	92
1. 医学科における教育	92

(1) カリキュラム改善と達成度評価	92
(2) 医学科の教育方針	93
(3) 医学教育の国際化	95
(4) まとめ	95
2. 大学院医学研究科における教育	96
(1) 医学研究科医科学専攻の現状	96
(2) 医学研究科における教育の今後	97
第3節 医学科における入学試験の改善	97
1. はじめに	97
2. 入学定員増	98
3. 地域定着枠の設定	98
4. 入試形態の多様化	99
5. まとめ	100
第4節 医学研究科における研究の充実と支援	101
1. はじめに	101
2. 若手研究者支援の充実	101
3. 医学研究科における研究基盤の充実	102
4. 革新的イノベーション創出プログラム	103
5. まとめ	104
第4章 医学部保健学科・大学院保健学研究科	105
第1節 10年の歩み	105
1. 歩みの概略	105
(1) 医学部保健学科と大学院保健学研究科の組織の変化	105
(2) 校舎改修	105
(3) 教育等について	106
(4) 研究等について	107
2. 地域志向の取組とグローバル	107
3. 被ばく医療人材育成と東日本大震災の経験	109
(1) 被ばく医療人材育成推進プロジェクト	109
(2) 被災地での活動とその後の地域貢献	111
(3) 教育研究へ	112
4. 研究・社会貢献	115

(1) 大学院保健学研究科の研究活動	115
(2) 特定プロジェクト教育研究センター	116
第2節 現状と将来展望	119
第5章 医学部附属病院	122
第1節 10年の歩み	122
1. 施設整備状況	122
(1) 施設整備	122
(2) 設備整備	123
2. 診療科・中央診療施設等の動向	125
(1) 診療科	125
(2) 中央診療施設など	128
3. 地域医療への貢献	130
(1) 地域医療機関とのネットワーク	130
(2) 地域がん診療拠点病院	132
(3) がんゲノム医療連携病院	132
(4) 肝疾患診療連携拠点病院	132
(5) 高度救命救急センターを中心とした救急医療・災害医療・ 被ばく医療に関する取組	133
(6) 東日本大震災に関連する貢献	134
(7) 地域看護職員の資質向上への取組	134
(8) 総合患者支援センターの設置	134
4. 卒後臨床教育への対応	135
(1) 臨床研修制度	135
(2) 専門医養成コース	136
5. 外部資金獲得状況	136
6. 東日本大震災の経験	137
(1) 地震発生当日	137
(2) 2011年3月12日	137
第2節 現状と将来構想	142
1. 附属病院の現状	142
2. 附属病院の将来像	145

第6章 理工学部・大学院理工学研究科	146
第1節 10年の歩み	146
1. 理工学部改組（2016年）	146
(1) 理工学部の変遷	146
(2) 社会状況の変化に対応して	146
2. 理工学研究科の発展	148
(1) 理工学専攻の設置	148
(2) 新エネルギー創造工学コースの設置	150
(3) 附属医用システム創造フロンティアの設置	153
第2節 教育と学生	154
1. カリキュラムの変遷	154
(1) J A B E Eの総括	154
(2) 学部改組によるカリキュラムの改正	156
2. 入学・修了の状況	162
(1) 入試制度の変遷	162
(2) 卒業生・修了生の進路	165
(3) 就職対策	165
3. 学生支援	166
(1) 同窓会	166
(2) 後援会	166
(3) 保護者懇談会	166
第3節 研究活動と社会活動	167
1. 研究活動	167
(1) 研究成果の公表	167
(2) 外部資金の獲得状況	167
(3) 国際交流	168
2. 社会活動	168
(1) 模擬講義・公開講座・高大連携	168
(2) 楽しい科学・サイエンスへの招待	169
第7章 農学生命科学部・大学院農学生命科学研究科	170
第1節 10年間の歩み	170
1. 10年の歩み—学科・大学院改組	170

2. 生物共生教育研究センター	172
3. 白神自然環境研究所（白神自然環境研究センター）	173
4. 遺伝子実験施設	175
5. 農学生命科学部創立 60 周年記念事業について	176
6. 東日本大震災と農学生命科学部における被災学生に対する支援策	178
第 2 節 教育と学生	181
1. カリキュラムの変遷	181
(1) 農学生命科学部のカリキュラム	181
(2) 学科改組後のカリキュラム	181
2. 入学・修了の状況	184
(1) 学部	184
(2) 大学院研究科	185
3. 同窓会、後援会、保護者懇談会	186
第 3 節 研究と社会活動	186
1. 研究活動	186
2. 社会活動	188
(1) 公開講座・地域連携推進室	188
(2) 研究集会・国際交流	189
(3) 地域貢献	189
(4) 戦略 1：アグリ・ライフ・グリーン分野における地域の特性・ 資源を活かしたイノベーション創出・人材育成事業	190
第 8 章 大学院地域社会研究科	192
第 1 節 10 年の歩み	192
1. 研究科の歩み	192
2. 入学・修了の状況	203
3. 東日本大震災と地域社会研究科	203
4. 国際交流の進展	204
5. 大学院レベルの地域公開セミナーの実施	204
第 2 節 研究活動と社会貢献	204
1. 外部資金の獲得状況	204
2. 青森県との連携による継続的な研究活動	205

3. NPO 法人ひろだいいりサーチ	206
第9章 附置研究所	209
第1節 被ばく医療総合研究所	209
第2節 地域戦略研究所	211
第10章 附属図書館	217
第1節 附属図書館	217
第2節 医学部分館	219
1. 医学部分館の改修と医学部分館・保健学科分室の統合	219
2. サービスの充実と施設整備	220
第11章 本部	221
第1節 COC推進本部	221
第2節 国際連携本部	223
第12章 機構	225
第1節 教育推進機構	225
第2節 研究・イノベーション推進機構	227
第3節 社会連携推進機構	229
第4節 COI研究推進機構	231
第13章 学内共同教育研究施設等	233
第1節 総合情報処理センターの歩み	233
第2節 生涯学習教育研究センター	234
第3節 保健管理センター	235
第4節 アイソトープ総合実験室	236
第5節 機器分析センター	238
第6節 大学出版会	240
第7節 資料館	241
第8節 ボランティアセンター	242
第9節 放射線安全総合支援センター	243
第10節 健康未来イノベーションセンター	244

第 11 節 学生総合相談室	246
第 12 節 学生特別支援室	247
第 14 章 各室	249
第 1 節 評価室	249
1. 評価室の設置と業務	249
2. 教員業績評価	249
3. 大学評価	250
4. 今後の展望	251
第 2 節 法人内部監査室	251
1. 設置等	251
2. 監査概要	252
第 3 節 苦情処理室	253
第 4 節 男女共同参画推進室	254
第 5 節 学長戦略室	256
第 15 章 事務局	259
第 1 節 事務組織の歩み	259
第 2 節 財政	260
1. 国立大学法人運営費交付金の変遷と弘前大学の取組	260
2. 弘前大学の財政基盤	261
第 3 節 施設	263
1. キャンパス紹介	263
2. 保有状況	264
3. 施設整備	264
(1) 国の動きと概要	264
(2) 近年の弘前大学における施設整備等状況	265
(3) 現在及び今後の施設整備状況	269

資料編

第1編 弘前大学全体の歩み

第1章	弘前大学の10年	271
第2章	機能強化に向けた組織改革	
第3章	教育改革	274
第4章	研究の10年	278
第5章	社会連携	280
第6章	国際化	285

第2編 各部局・附属機関・附属施設の歩み

第1章	人文社会科学部・大学院人文社会科学研究科	288
第2章	教育学部・大学院教育学研究科	306
第3章	医学部医学科・大学院医学研究科	316
第4章	医学部保健学科・大学院保健学研究科	325
第5章	医学部附属病院	334
第6章	理工学部・大学院理工学研究科	352
第7章	農学生命科学部・大学院農学生命科学研究科	379
第8章	大学院地域社会研究科	387
第9章	附置研究所	400
第10章	附属図書館	405
第11章	本部	408
第12章	機構	410
第13章	学内共同教育研究施設等	416
第14章	各室	432
第15章	事務局	438

別 編

組織	439
事務機構	440
建物配置図	441
沿革年表	446
弘前大学七十年史 通史・資料編関係者一覧	453
あとがき	456

凡 例

1. 通史編は『弘前大学六十年史』の補遺版として2009年（平成21）4月から2018年（平成30）12月までの弘前大学の歩みを記述したが、経緯等の記述を必要とする部分については、この期間以外についても記述の対象とした。資料編も同様に2009年（平成21）から2018年（平成30）までの資料を収録した。
2. 本文の記述は、原則として常用漢字、現代かなづかいによった。
3. 年号は、西暦年号を用い、和暦を（ ）で付した。
4. 人名は、原則として敬称を省略した。
5. 数字、度量衡はアラビア数字とし、単位は%、km、kg、mなどの記号で示した。
6. 引用が頻繁に行われるものは、下記のように書名を略記した。
例
『弘前大学五十年史』→『五十年史』
『弘前大学六十年史 資料編』→『六十年史資料編』
『弘前大学医学部五十年史』→『医学部五十年史』
7. 引用した資料には、原資料の体裁を改めたものもある。